



## 低炭素杯 2012

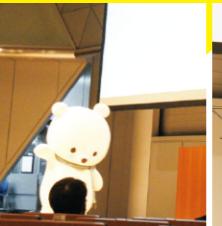
### 「東日本大震災 被災地域貢献活動賞」を受賞！

そらべあ基金は、2月18・19日に東京ビックサイトで行われた「低炭素杯 2012」において、「東日本大震災 被災地域貢献活動賞」を受賞しました。

低炭素杯 2012は、低炭素社会の実現に向け、地球温暖化防止活動に取り組む学校・NPO・企業らを表彰する全国大会。18日には厳しい審査を経て選ばれたファイナリスト41団体によるプレゼンテーションが行われ、グランプリ他各賞がそれぞれの活動団体に贈られました。

「東日本大震災 被災地域貢献活動賞」を受賞したのは3団体。被災地以外の団体としては、そらべあ基金が唯一の受賞です。3.11直後から行ってきた、太陽光発電による電力未復旧地域への電力支援などの活動が高く評価されました。

今回の受賞は、寄付金と想いを当団体に託していただいた個人や企業の方々、ならびに関係者、そして何より被災地のみなさまのご支援・ご協力のおかげです。そらべあ基金ではこれを励みに、より一層、地球温暖化防止活動に邁進していきます。



#### 事務局からのお知らせ

##### ツイッター、フェイスブックはじめています！

そらべあ基金事務局では、そらべあや再生可能エネルギーに関する情報発信、そらべあ＆そらべあ基金ファンの方々とのコミュニケーションを目的に、ツイッターとフェイスブックの運用を始めています。登録しなくても閲覧はできますが、ぜひこの機会に登録して「フォロー」や「いいね！」をクリックしてみてください。そらべあ基金に関する質問やそらべあ便りの感想など

も、ツイッターの返信（リプライ）やフェイスブックのコメントなどでお知らせいただけるとうれしいです。

twitter

[http://twitter.com/solarbear\\_staff](http://twitter.com/solarbear_staff)

facebook

<https://www.facebook.com/solarbear.staff>

そらべあ基金  
事務局の  
つぶやき



#### そらべあソポーターズクラブ

そらべあ基金の活動は、「そらべあソポーターズクラブ」会員のみなさまのご支援により支えられています。

プレミアムソポーター：ソニー損害保険(株)

オフィシャルソポーター：ソニー(株)、ソニーマーケティング(株)

ソポーター：(株)ソニー・ピクチャーズエンタテインメント、(株)ホンダシリアルテック、(株)毎日新聞社

応援団：6社

個人・ファミリーソポーター：81名  
(2012年3月31日現在)

#### そらべあ便り vol. 12

2012年3月発行

編集：加藤聰

デザイン：小池隆夫

NPO 法人そらべあ基金  
東京都千代田区神田淡路町 1-9-7  
岡本ビル 3F  
TEL : 03-3251-5454  
FAX : 03-5256-7344  
<http://www.solarbear.jp>

# そらべあ便り

## Sorabear Newsletter

Vol.12



桜前線  
北上号



©Shinzi Katoh

[www.solarbear.jp](http://www.solarbear.jp)



## 第13回そらべあスマイルプロジェクト ～ご当地版・被災地支援編～ そらべあ発電所 完成記念式典報告

震災後初となる第13回目の「そらべあスマイルプロジェクト」は、被災地のなかでも特に被害の大いにかかった岩手、宮城、福島の3県の園を対象とした「被災地支援編」を実施しました。

寄贈先として選ばれたのは、宮城県登米市の保育所「みどりご園」。登米市は宮城県の北部に位置する水の里。ラムサール条約の登録湿地である「伊豆沼・内沼」や「蕪栗沼（かぶくりぬま）」など多数の湖沼が市内に点在しており、豊かな水に恵まれています。みどりご園でも、池を中心自然と触れ合いながら学び、遊べるビオトープを設けていました。

式典では、お祝いに駆けつけたそらべあたちに、園児たちからのうれしいプレゼントが！ 英語での「幸せなら手をたたこう」の合唱や、「きらきら星」のピアニカ演奏など、元気いっぱいの姿で披露してくれました。「3月の震災では電気が止まってしまいましたが、今回、太陽光パネルが付いたことで、もしもの時も安心して過ごせるようになりました」と、今回のプロジェクトへの感謝を語ってく

れた同園の片岡副園長。「今日帰ったら、そらべあたちのこと、節電のことを、おうちでお話ししよう」と子どもたちに呼びかける様子が印象的でした。



早朝の蕪栗沼。日の出とともに、数万羽のマガムが大空を舞う様子は圧巻のひと言！



## 仮設住宅に光を！ そらべあ街路灯が完成



東日本大震災から約1年。そらべあ基金は震災直後から、太陽光発電パネルと蓄電池を搭載した「ソーラーパワートラック」を被災地に派遣し、停電地域での電力供給や子どもたちの心のケアといった活動を行ってきました。こうした被災地支援活動の一環として今年1月、宮城県登米市の津山若者総合体育館仮設住宅に、ソーラー街路灯の寄贈を行いました。

この取り組みの発端となったのが、オフィシャルサポーターであるソニーの社内イベントで集められた募金。被災地での効果的な活用の可能性を探っていたところ、前述の「みどりご園」の式典前日に訪れた登米市市民生活部環境課の方々との意見交換で、仮設住宅周辺で街路灯設置の要望が多いことがわかりました。検討の末、津山若者総合体育館仮設住宅への街路灯の寄贈が決まりました。

「そらべあ街路灯」と名付けられたソーラー街路灯には、80Wの太陽光パネルとソニー製の高出力・長寿命型のリチウムイオン電池を使用。昼間にた



めた電気で、照明を点灯させるだけではなく、緊急時には電源を供給することもできます。

今回、寄贈されたそらべあ街路灯は、仮設住宅に暮らす人々が使用する階段の足元を安全に照らしてくれます。また今後、仮設住宅からの退去が進んだ場合には、街路灯は地域の小学校などに移設し、再生可能エネルギーを学ぶための環境教育教材として役立てるこも決まっています。そらべあ基金では引き続き、さまざまな形で被災地の復興支援を行っていきます。



## コミュニケーションアートで、被災地の子供たちを応援



2月22日、福島県いわき市立久之浜第一小学校の6年生44名を対象に、再生可能エネルギーを題材としたワークショップを開催しました。このワークショップは、この春卒業を控えた被災地の子どもたちの思い出作りを支援したいというソニー損保の企画によって実現。同社とNPO法人インスティテュート・オブ・コミュニケーション・アート (IOCA)、そらべあ基金の3者での共同実施となります。

そらべあ基金は午前中に行われた再生可能エネルギーについての授業を担当。久之浜第一小学校ではエネルギー教育が盛んとのことで、子どもたちの環境意識の高さにはスタッフも驚かされました。

給食をはさんで午後からは、IOCAのファシリテーターでコミュニケーションアートに取り組みます。コミュニケーションアートとは、自分の思いをアートで表現しながら感性や創造性を育みつつ、お互いの作品を鑑賞することで、人とのコミュニケーションを楽しんでもらう手法のこと。今回は「自分の心中の太陽」をテーマに、再生可能エネルギーの授業からイメージを膨らませて1枚の絵を作成します。



パステルを指でのばしながら模様を描く子どもたちの表情は真剣そのもの。完成後は、全員の作品を一列に並べ、絵を見て感じたことをせんに書いて貼っていきます。子どもたちにとって、自分の描いた絵の感想を聞くことなんてめったにない機会。素敵なコメントが読み上げられた時の、照れたような笑顔が印象的でした。

東日本大震災以降、被災者の方々にとっては大変な1年だったと思います。子どもたちがこのワークショップを体験したこと、再生可能エネルギーに夢や希望を見出し、未来に向かって前向きに進もうという気持ちになってくれたら、我々にとって、これ以上うれしいことはありません。



ワークショップで描かれた絵は1枚のポスターにデザインされ、卒業記念の作品としてプレゼントされます



©Shinzi Katoh



4

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

5

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30